

## マレリ株式会社 (旧 カルソニックカンセイ株式会社)

### Micro Focus Enterprise Server の 熟練したスキルを活かし、 大規模マイグレーションを計画通り完遂

日本の大手自動車部品メーカーとして、様々な自動車部品を供給しているマレリ（旧カルソニックカンセイ）。同社は、過去30年以上にわたってメインフレーム上で運用してきたレガシーシステムの運用コストを削減するために、システムのオープン化に着手した。採用した方法は、Micro Focus Enterprise Serverをターゲット環境とした「リホスト」だ。キャノンITソリューションズは、Micro Focus Enterprise Serverへのマイグレーションにおける多大な実績を活かして、アプリケーション資産の移行作業や性能検証、テスト、データ移行などトータルなサポートを実施。メインフレームの更新が迫る限られた期間での移行プロジェクトの成功を幅広く支えた。移行作業を終えた現在、システムの運用コストは10分の1以下に削減している上、柔軟に他拠点へのシステムの移植が可能になるなど、同社の成長戦略に大いに貢献するIT環境が実現している。

#### ▶お客様プロフィール



社名：マレリ株式会社  
URL：<https://www.marelli-corporation.com/>

設立：1938年8月25日  
従業員数：マレリグループ約62,000名  
事業内容：自動車を構成する多種多様な製品の設計・開発から製造・販売までを行う総合自動車部品メーカー

○ 1938年の創立以来、一貫してクルマにおいて重要な役割を担う製品を供給し続け、モノづくりへの情熱で自動車産業を支えてきた。イタリアのマニエッティ・マレリと経営統合し、2019年10月1日にはカルソニックカンセイ株式会社からマレリ株式会社に社名を変更。イノベーションとモノづくりで定評のある両社の強みを活かし、革新的で開かれた、真にグローバルな企業として新たなスタートを切った。欧州、米州、アジア太平洋地域に約170の工場と研究開発拠点を有し、埼玉県さいたま市とイタリアのコルベッタに事業本社を置いている。

#### お客様が実現できたこと

- ✓ 基幹システムにかかわる運用コストを10分の1以下に削減
- ✓ システム更新までの限られた期間内での完全移行を実現
- ✓ オープン化によりシステムに拡張性や柔軟性を持つことができた



## — お客様の声 —



マレリ株式会社 (旧カルソニックカンセイ株式会社)  
グローバル業務改革本部グローバルIT部  
プロジェクトリーダー (当時)  
菱田 次郎氏 (現 株式会社ディスタンス 在籍)

### 「大規模システムを短期間で移行」

「メインフレーム上のレガシーシステムの運用に要する膨大なコストは長年大きな課題でした。そこでキャノンITソリューションズをパートナーに迎えて、システムのオープン化を断行。メインフレーム系、オープン系、双方にまたがる高度な技術的ノウハウを駆使した同社の支援によって、計画通りの短期間で移行を実現できました」

### — 担当紹介 —



(右) SI サービス事業部 ソリューション開発本部  
ソリューション開発第四部  
戸村 浩明

(左) SI サービス事業部 ソリューション開発本部  
ソリューション開発第四部  
寺門 一典

「当社が数多くのお客様におけるマイグレーションプロジェクトに携わる中で培ってきた移行ツール類を最大限に活用することで、マレリ様の定めた工期を遵守しながら、高品質なシステムの移行を実現できました」

## 👤 お客様のご要望

- ▶ **メインフレーム上で稼働するレガシーシステムの運用コストを削減したい**
- ▶ **メインフレームの更新時期までの短期間で完全オープン化を実現したい**
- ▶ **現場ユーザーに違和感を与えないように既存環境の使い勝手やインターフェースを踏襲したい**

## 📌 課題 導入前の課題と背景

### レガシーシステムの運用コストが切実な課題

今回のシステム移行プロジェクトの背景について教えてください

「旧カルソニックカンセイは、過去30年以上にわたって、ビジネスの根幹を担う基幹システムを、IBMのz/OSベースのメインフレーム上で稼働させてきました。オープン化の流れの中で、いくつかの業務はオープンシステムへと移行させてきましたが、経理、営業、購買といった主要業務は依然としてメインフレーム上で稼働しており、それらメインフレームの高額な維持管理費用がIT予算を圧迫していました。

しかも、数年後には、メインフレームのバージョンアップに伴ってさらなる追加コストが発生することも判明。そこで、メインフレームの契約更新前までに、レガシーシステムをオープン環境に全面的に移行し、レガシーシステムの維持管理にかかわるコストの大幅な低減を目指すことにしました」

## 📌 必然 導入の必然性

### ベンダーとして信頼感が採用を大きく後押し

オープンシステムへの移行はどのようなアプローチで進めましたか

「リビルト、リライト、リホストの3つの手法を検討して、リホストによるストレートコンバージョンを選択しました。メインフレームの契約更新前までという限られた時間で、稼働している2万本を越える資産を確実に移行させる必要があったからです。その上でIBMのメインフレームからの移行において豊富な実績を持つMicro Focus Enterprise Serverを活用してオープン化を図ることにしました」

アプリケーション資産の移行作業をキャノンITソリューションズに依頼した理由についてお聞かせください

「まずマイクロフォーカス社に相談したのですが、これほど大規模な移行

プロジェクトを支援できるベンダーは非常に限られているとの回答でした。その数社を紹介してもらい、各社に提案を依頼しました。提案内容を、実績、技術支援体制、移行後の性能保証、さらにはコスト面といった様々な項目で採点したところ、すべての項目で最も高得点だったのがキャノンITソリューションズでした。

また、こちらからの資料や説明の依頼に対しスピーディかつ真摯に対応してくれるなど、ベンダーとして信頼できることも同社を選定した重要なポイントとなりました」

## 工夫 運用の工夫 移行作業に先立つ検証で性能面の不安を払拭

### 移行プロジェクトでは、どのような点に注意しましたか

「当初、オープン環境に移行しても旧来のメインフレームと同様の性能を担保できるのかという点に懸念がありました。それを伝えると、キャノンITソリューションズは、移行作業に先立って性能面で懸念のある処理をパイロット移行。実データを使った性能検証を実施してくれました。その結果を踏まえながら、データベースやOSなど、移行先のプラットフォームをより高い性能が期待できる製品へと変更するなど、事前に調整を図ることができ、プロジェクトを安心して進めていくことができました」

### アプリケーションのマイグレーションに関して工夫した点 はありますか

「レガシーシステム上で稼働していた資産は2万本とい



マレリ株式会社 (旧カルソニックカンセイ株式会社)  
グローバル業務改革本部グローバルIT部  
インフラリーダー  
中村 安行氏

う膨大な数でしたが、すべてを本当にオープン系へと移行すべきものかどうか、改めて精査しました。具体的には、キャノンITソリューションズのサポートを得ながら、システムのログを検証して、各プログラムの利用状況を確認。同時に現場にも利用状況をヒアリングして、マイグレーションが不

要なプログラムを洗い出しました。結果、最終的には移行対象とすべき資産を46%削減することができました」

### マイグレーション作業は円滑に進みましたか

「円滑に進めることができました。例えば、今回の移行対象資産には、COBOLプログラムだけではなくJCLやBMS画面なども含まれていました。それらの資産変換作業も、キャノンITソリューションズが用意した移行ツールを駆使して進めてくれました。このツールには、同社が長年にわたって数々の移行プロジェクトを経験する中で培い、磨き上げてきた独自のノウハウが注入されており、そのおかげもあって作業自体は最短時間で円滑に進んだものと認識しています。

また、『ダイレクト印刷』など、Micro Focus Enterprise Serverでサポートされていなかった機能もいくつかあったのですが、キャノンITソリューションズがマイクロフォーカス社に働きかけて、Micro Focus Enterprise Server側で機能拡張を行ってくれました。他のサポートされていない機能についても、キャノンITソリューションズが代替方法の提案、作り込みなどによって対応してくれた上、リージョンをまたいだテーブルアクセスなど、想定通りの動きをするかどうか懸念のあった機能についても十分に事前検証を行ってくれました。

資産コンバージョン後も、キャノンITソリューションズは、レガシーシステム上の不具合などで改修が発生した資産に対する再変換や移行対象に格上げした資産に対する追加変換などにも柔軟に対応してくれたほか、1～3名の担当者を窓口および現場支援として当社に常駐して、総合テスト、運用テスト、データ移行、稼働直後のサポートなどを支援してくれました。このようなキャノンITソリューションズの対応によって、マイグレーション作業だけでなく、プロジェクト全体を円滑に進めることができ、計画通りにプロジェクトを完遂できました」

## 成果 取り組みの成果 成長戦略に柔軟に追従できるIT環境を確立

レガシーシステムのオープンシステムへの移行による成果について教えてください

「システムの維持管理費用を10分の1以下に削減。当初の目的であった大幅なコスト削減を実現しています。削減したコストは、新規開発や基幹システムにおける新たな業務ニーズへの対応など、戦略的なIT投資に充てていく考えです。

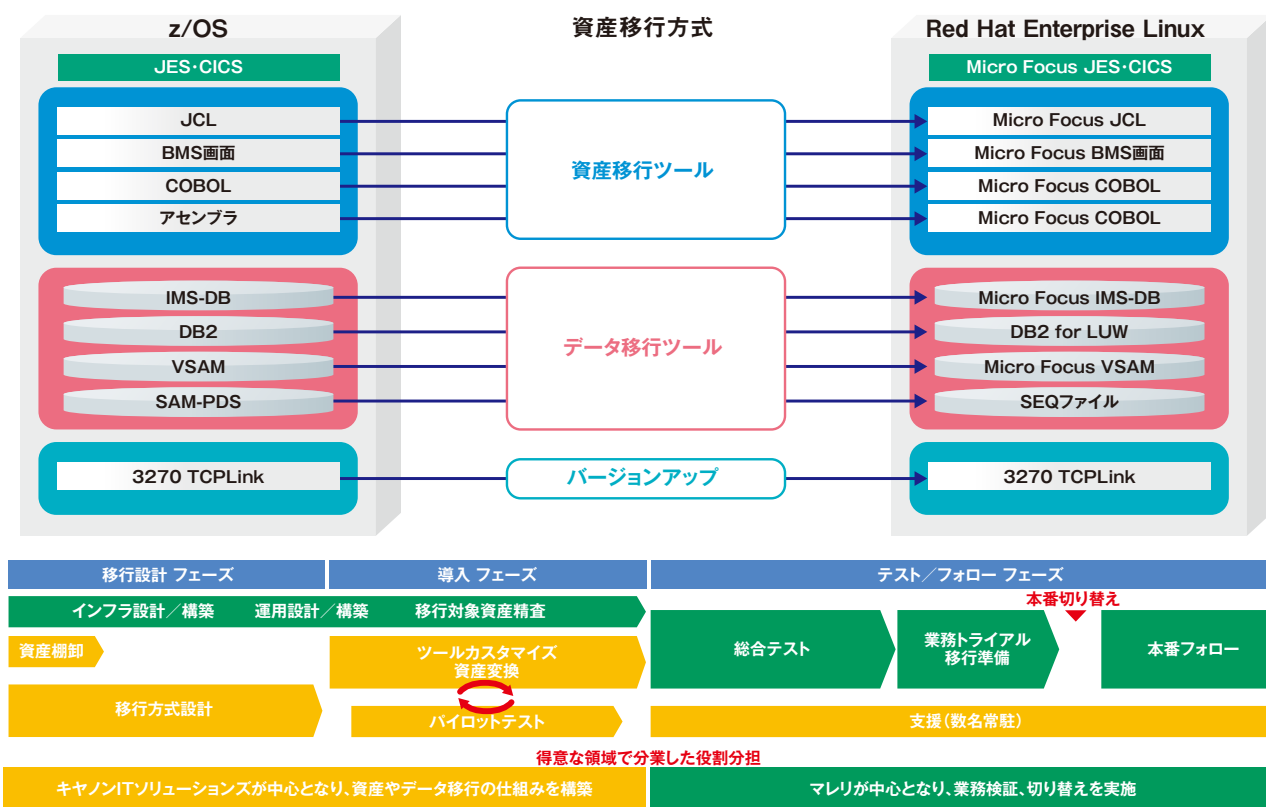
また、夜間バッチ処理の大幅な時短が実現できています。これによりシステム毎に異なっていたオンライン業務終了時刻を統一できました。これはユーザ部門には好評ですし、IT部門においても、ユーザーからの利用時間の延長申請がなくなったことで、運用作業の負担が減りました」

今後の展望についてお聞かせください

「マレリは、中国のShanghai Highly Groupと戦略的パートナーシップを締結しました。これは、当社が成長戦略として描いている、中国市場への確かな足掛かりの獲得、および電動化技術への投資の促進という2つの重点施策に基づくものです。この取り組みを後押しするために中国の拠点にも今回と同様の構成のシステムを移植したいと考えています。このような検討を柔軟に行えるのも、メインフレームからの脱却を図り、システムをオープン化した成果です。

このような取り組みも含めて、今後もキャノンITソリューションズには、引き続き、その持ち前の技術力、ソリューション力で、我々の取り組みを支援していただけることを大いに期待しています」

## オープン系システムへの移行イメージ



キャノン IT ソリューションズ マイグレーション ホームページ

[www.canon-its.co.jp/solution/migration/](http://www.canon-its.co.jp/solution/migration/)

キャノン IT ソリューションズ株式会社

三田事務所 〒108-0073 東京都港区三田3-11-28 TEL(03)5730-7178

大阪事業所 〒550-0001 大阪市西区土佐堀2-2-4 TEL(06)7635-3040

**Canon** キャノン IT ソリューションズ株式会社

〒108-0075 東京都港区港南2-16-6 キャノン S タワー

Copyright 2019 Canon IT Solutions Inc. All rights reserved.

※掲載内容は2019年取材当時のものです